

Ⅱ-8 水面地調査

1. 水面地の現況

	(H26)		(R5)
○水面地の面積	90,435 m ²	→	92,863 m ²
○水面地の箇所数	51 箇所	→	57 箇所

空中写真の判読および地形図等から区内の水面地を調査した。空中写真では判読困難な樹木に覆われた水面についても厳密に抽出し、特定の生物の繁殖場所や防災上の機能も兼ねることから、人工的な水面である学校のプールについても調査対象とした。

水面地の現況と経年変化を表Ⅱ-8-1に、自然水面・人工水面の面積を表Ⅱ-8-2に、水面地分布図を図Ⅱ-8-1にそれぞれ示す。

区の水面地（面積 92,863 m²）は主に河川・公園内の池であり、水面地の9割近くが自然水面となっている。自然水面である河川は、目黒川と呑川の一部だけで、いずれも両岸がコンクリート護岸となっている。池については、そのほとんどが公園・大学等にあり、公園内の池は古くは灌漑用の溜池や庭園の池として人工的に造られたものである。また、区立小学校等のビオトープの水辺環境も人工の水面地とみることができる。

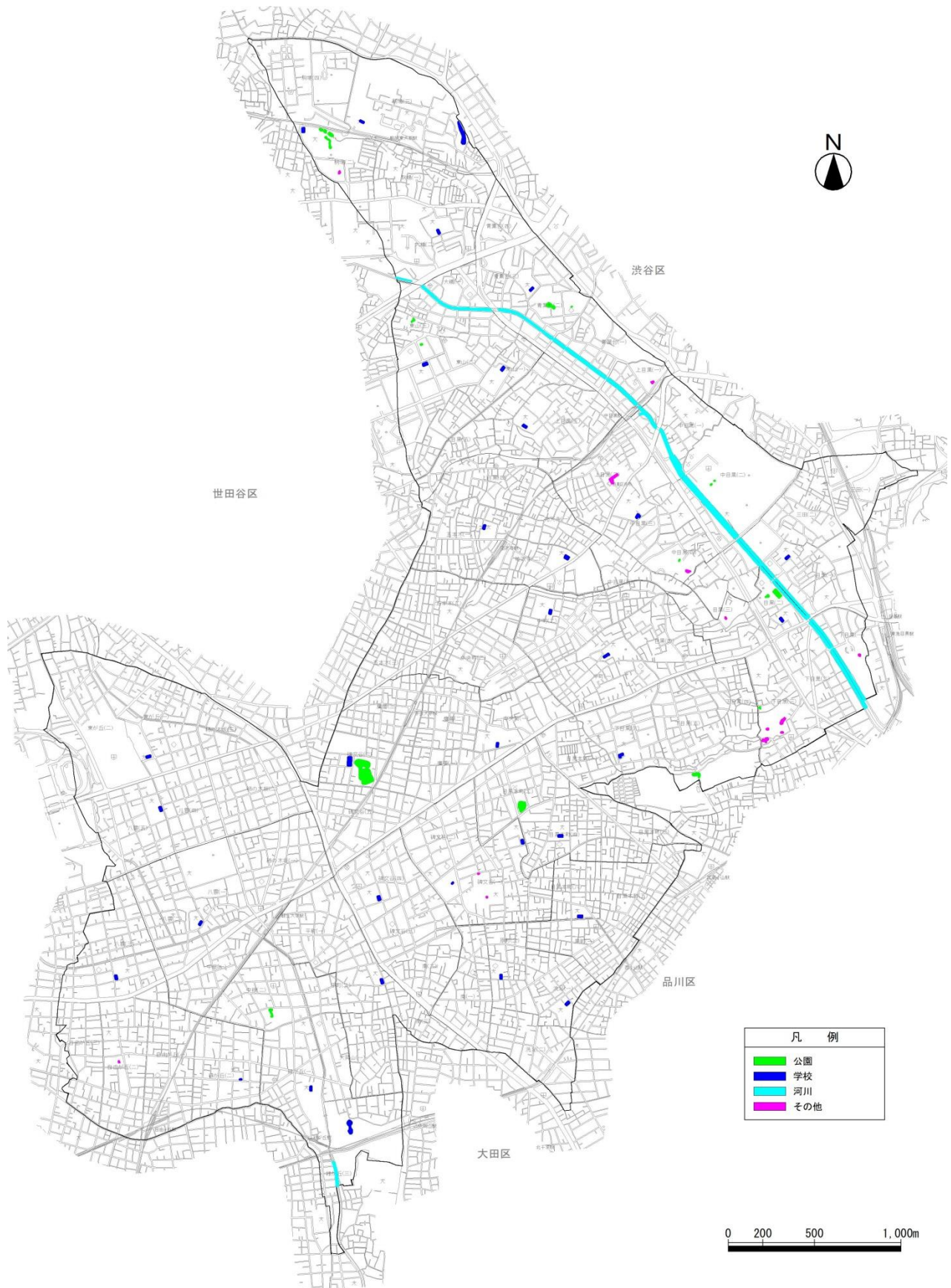
前回調査から水面地は6箇所増加、面積も全ての区分で増加（2,428 m²）した。これは、前回よりも精度を上げて調査したことにより、公園（人工池）や学校（プール）の水面を追加したことが反映されている。

表Ⅱ-8-1 水面地の現況と経年変化

区分		公園	学校	河川	その他	計
平成26年度	面積(m ²)	12,794	9,950	65,447	2,244	90,435
	箇所	12	28	2	9	51
令和5年度	面積(m ²)	13,186	11,475	65,896	2,306	92,863
	箇所	13	33	2	9	57
増減	面積(m ²)	392	1,525	449	62	2,428
	箇所	1	5	0	0	6

表Ⅱ-8-2 水面地（自然水面・人工水面）の現況

区分	公園	学校	河川	その他	合計
自然水面(m ²)	11,738	2,832	65,896	1,196	81,662
人工水面(m ²)	1,448	8,643	0	1,110	11,201
計	13,186	11,475	65,896	2,306	92,863



図Ⅱ-8-1 水面地分布図

2. 河川と池の現況

公園、大学、社寺等にある池は、樹林地と一体となるなど、自然的な環境を有している。

表Ⅱ-8-3に区内の主な池の一覧を示す。碑文谷池や清水池、駒場野公園内の池のように、かつて灌漑用の用水池だったものが公園の一部に取り込まれて保全されてきたものや、東京大学駒場Ⅰキャンパスや東京工業大学大岡山キャンパスの構内などに、樹林地と一体となって保全されてきたものなどがある。

表Ⅱ-8-3 目黒区の主な池等の一覧

施設名	所在地	池等の呼称	形態等
駒場野公園	駒場2-19	大池 ケルネル水田	現在も公園内に保全されているケルネル田んぼの用水池として、周辺の樹林とともに保全されてきた。トンボ類、サギ、カワセミ等の水辺環境に生息する生物が多く記録されている。モツゴ、ドジョウなどの魚類の生息が確認されている。ケルネル水田耕作時は水が張られ、メダカ等の魚類、トンボ類等の水生昆虫等が豊富である。
東京大学 駒場Ⅰキャンパス	駒場3-8	駒場池 (一二郎池)	敷地東側の樹林内にあり、周辺の樹林と一体となって保全されてきている。護岸はなく、湧水の流れと自然池から成る。区内では希少な水生生物の記録もある。敷地西側の駒場小学校と隣接する辺りに、空川の源泉のひとつとなる湧水があり、敷地南端の下水口まで、年間を通して、流水の形態が見られる。
東山貝塚公園	東山3-16	—	崖線下から湧く湧水があり、これを用いた流水の流れと池がある。湧水量は年間を通してほぼ一定である。
東山公園	東山3-24	—	新設された拡張部内にピオトープの池が整備された。公園活動登録団体によるメダカ等の在来種の回復活動が継続している。
菅刈公園	青葉台2-11	—	かつての西郷従道邸にあった池を、公園整備の際に一部復原したもの。北側は樹林地。護岸・底面ともコンクリートの人工池。近接して、地域住民の活動によりピオトープが設置され、在来種のメダカが放されるなど水辺環境の回復が図られている。
西郷山公園	青葉台2-10	—	高低差のある敷地の地形を利用し、流れと池を設置している。護岸・底面ともコンクリート。植栽と一体となって設置され、観賞用の池となっている。
目黒川	大橋2～ 下目黒1,2	—	目黒区で最大の解放水面。下水道処理水の放流により水流を維持している。中目黒の船入場付近までは感潮域で、東京湾からボラ、ハゼ類等の魚類等が遡上する。東山付近では、湧水の流れ込み口が見られる。季節によりカモ類、サギ類、セキレイ類、カワセミ等の水鳥類が全区間で見られている。なお、大橋より上流の暗渠化された部分には緑道内に目黒川緑道にせせらぎが整備され、人工の流れが見られる。
龍泉寺 (目黒不動尊)	下目黒3-20	—	境内南側にある。従前から周辺の樹木とともに、湧水池として保全されてきたが、現在はコンクリートの護岸が施されている。境内中央部の樹林内には、斜面地から染み出した湧水に小さな流れが残されている。
都立林試の森公園	下目黒5	(旧目黒試験苗圃、 林業試験場)	かつての品川用水の名残で、池として残っている。良好な水辺環境が保たれている。
中目黒南緑地公園	中目黒4-13	—	公園になる以前より、斜面樹林地の下部にあり、樹林と一体となって保全されてきている。護岸はコンクリート。
清水池公園	目黒本町2-12	清水池 (旧称：池上の池)	旧碑文谷村の水田灌漑用の貯水池だったものが、一部保全されたもの。護岸はコンクリート。冬期にはカモ類の飛来が見られる。立会川の源泉のひとつ。
碑文谷公園	碑文谷6-9	碑文谷池または三谷池 (旧称：鴨池)	清水池同様、水田灌漑用の貯水池だったものが、一部保全されたもの。周辺の樹林とともに古くから地域住民に保全されてきたことが、園内の石碑に記されている。護岸はコンクリート。冬期にはカモ類の定期的な飛来が見られる。
呑川	八雲3～緑が丘3	—	下水道処理水の放流により水流を維持している。季節によりカモ類、セキレイ類等の水鳥類が見られている。
東京工業大学 大岡山キャンパス	大岡山2-10	ひょうたん池	人工的に造られた貯水池だが、周辺は樹林に囲まれ、良好な水辺地を形成している。水生昆虫が多く、カワセミやカモ類など水辺鳥類の飛来も多い。

注) なお、中町せせらぎ緑地公園、中根公園などにも人工の池がある。

3. ビオトープ整備の現況

(1) 小学校、公園等のビオトープの整備現況

目黒区では、区内の自然環境の回復を図り、身近な生き物と共生するまちを目指し、平成9年度よりビオトープ（動植物の生息空間）を整備している。また、この活動により、人々が自然環境に興味を持つことも目標としている。

このうち、学校等については2024（令和5）年度時点、区立小学校18校、区立幼稚園1園、計19箇所にトンボなどの生息できる池などのビオトープが整備されている。これらの「学校ビオトープ」19箇所以外に、中目黒公園、菅刈公園、東山公園の3公園にビオトープの池が整備され、住民参加により維持管理が行われている。

(2) 学校ビオトープの活用、維持管理について

整備後のビオトープの維持管理は各小学校等が行い、環境教育の教材として活用されている。一方で維持管理が難しいといった課題がある。

(3) 区内のビオトープ事例

区内の公園、小学校等で造られたビオトープ位置図を図Ⅱ-8-2に示す。



図Ⅱ-8-2 ビオトープ位置図

みどりの係と連携したビオトープ活動実績一覧を表Ⅱ－8－4に、活動の様子を図Ⅱ－8－3に示す。また、ビオトープに関して、各小学校独自に実施した環境実習による活動報告の事例を表Ⅱ－8－5に示す。


表Ⅱ－8－4 みどりの係と連携したビオトープ活動実績

年度	みどりの基本計画進捗状況調査より
平成27年度	鷹番小学校、五本木小学校(ビオトープ活動)
平成28年度	鷹番小学校、五本木小学校(ビオトープ活動)
平成29年度	鷹番小学校
平成30年度	鷹番小学校、八雲小学校、不動小学校
令和 元年度	鷹番小学校、八雲小学校、不動小学校
令和 2年度	鷹番小学校、五本木小学校(ビオトープ活動)
令和 3年度	鷹番小学校、五本木小学校(ビオトープ活動)
令和 4年度	鷹番小学校、五本木小学校(ビオトープ活動)
令和 5年度	五本木小学校(ビオトープ活動)



図Ⅱ－8－3 ビオトープ活動の様子

表Ⅱ－8－5 環境実習による活動報告の事例

取り組み内容	点検評価	児童・生徒の反応など
<p>菅刈公園の栽培活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然観察・地域のNPO法人が管理している菅刈公園で野菜の栽培活動や、季節ごとの自然観察を行った。 ・菅刈公園でボランティア活動を通して季節の変化を感じ取った。 ・「生物多様性」の戦略拠点として区から指定を受けている菅刈公園で生態系の実地学習に参加することを通して、地域の方の自然に対する思いを受け継いでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、ボランティア活動を通して雑草取りや様々な栽培の作業段階に興味をもって取り組むことができた。また、季節ごとの公園の探検や管理人の方の話を聞くことで、植物の様子の変化や公園を維持する苦勞を感じ取ることができた。低学年では、「虫探し」の活動を通して、身近な場所にもたくさんの生き物が生息していることを知ることができた。 ・活動への参加や、地域の方の自然に対する思いを聞くことは、地域への愛着を高め、自然に親しもうとする豊かな心を育むことにつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年児童は、生活科の学習で「虫探し」という活動を行ったが、これまで一度も昆虫に触れる機会がなかった児童も多くいた。しかしながら身近にある公園を楽しく探検していく中で出会う昆虫には親しみを感じて触れ合うことができた。 ・都会の中にありながら豊かな自然と触れ合えることのできたことを児童は感じており、公園の管理をされている方にはいつも感謝の気持ちを伝えている。

Ⅱ－9 公共施設の緑化調査

1. 公共施設（区立施設）の現況

	(H26)		(R5)
○公共施設（区立施設）の緑被率	16.2%	→	18.4%

ここでは土地利用区分における公共施設の中から、区立施設の142施設の調査を行った。なお、施設種類区分の整合性を保つために前回調査データを再調整した。

区内の公共施設の全敷地面積は491,641㎡であり、区の総面積の3.3%に相当する。

区立の公共施設の施設種類別敷地面積と緑被率の経年変化を表Ⅱ－9－1に示す。

今回の調査では、学校の占める割合がもっとも大きく303,743㎡、全敷地面積の56.1%である。次いで、区民キャンパスなどの社会教育施設が48,428㎡と続いている。

区全体の公共施設の緑被率は18.4%である。「目黒区みどりの条例」では、公共施設について、敷地20%以上の緑地の確保を基準としており、前回調査（2014（平成26）年度）の緑被率（16.2%）から改善し、基準値に近づいている。

施設種類別では、その他の公共施設が33.3%と最も高く、次いで老人・児童施設19.8%、庁舎等17.7%、社会教育施設17.5%となっている。

一方、保育園が13.3%と最も低く、次いで集会施設が15.7%、学校が16.8%となっている。

表Ⅱ－9－1 区立公共施設の経年変化

施設種類	平成26年度			令和5年度調査			増減			令和5年度敷地面積構成比(%)
	箇所数	敷地面積(㎡)	緑被率(%)	箇所数	敷地面積(㎡)	緑被率(%)	箇所数	敷地面積(㎡)	緑被率(%)	
学校(小学校)	22	199,922	17.6	22	199,083	17.4	0	-840	-0.2	36.8
学校(中学校)	10	115,578	13.0	9	103,867	15.5	-1	-11,711	2.5	19.2
学校(幼稚園)	1	3,051	13.9	1	793	19.0	0	-2,258	5.1	0.1
学校	33	318,551	15.9	32	303,743	16.8	-1	-14,809	0.9	56.1
庁舎等	6	20,423	14.1	6	20,797	17.8	0	373	3.7	3.8
社会教育施設	6	13,810	21.3	13	48,428	17.5	7	34,619	-3.9	9.0
集会施設	27	82,628	11.6	23	25,572	15.7	-4	-57,056	4.0	4.7
保育園	21	23,582	10.6	17	16,982	13.3	-4	-6,599	2.7	3.1
老人・児童施設	27	31,974	21.5	26	31,598	19.8	-1	-376	-1.6	5.8
その他の公共施設	21	50,106	24.5	25	44,521	33.3	4	-5,585	8.7	8.2
合計	141	541,073	16.2	142	491,641	18.4	1	-49,432	2.2	100.0

注) 複合施設は一方に含めた。

2. 公共施設の変化要因

前回調査（2014（平成26）年度）から第四中学校の統合や住区センター、保育園の閉鎖など施設種類の区分変更で公共施設の敷地面積が減少したが、緑被率は2.2ポイント増加している。

緑被率で増加が大きかったその他公共施設や集会施設、庁舎等では樹木の成長や接道緑化が大きく影響している。